

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年6月22日
【事業年度】	第42期（自平成27年4月1日至平成28年3月31日）
【会社名】	株式会社 田 谷
【英訳名】	TAYA Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 保科 匡邦
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区神宮前二丁目18番19号
【電話番号】	03 - 5772 - 8401
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 露木 康雄
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区神宮前二丁目18番19号
【電話番号】	03 - 5772 - 8401
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 露木 康雄
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の状況

回次	第38期	第39期	第40期	第41期	第42期
決算年月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月
売上高 (千円)	12,518,622	12,048,372	11,931,448	11,763,108	11,843,613
経常利益又は経常損失 (千円)	502,207	69,902	143,482	409,861	228,703
当期純利益又は当期純損失 (千円)	161,631	47,694	191,410	892,688	182,137
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	1,480,180	1,480,180	1,480,180	1,480,180	1,480,180
発行済株式総数 (株)	5,100,000	5,100,000	5,100,000	5,100,000	5,100,000
純資産額 (千円)	4,418,206	4,260,575	3,959,228	2,958,489	2,776,344
総資産額 (千円)	8,992,349	8,614,941	8,214,156	7,228,637	6,798,592
1株当たり純資産額 (円)	884.15	852.61	792.30	592.05	555.60
1株当たり配当額 (円)	22	22	22	-	-
(内 1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円)	32.02	9.54	38.30	178.64	36.45
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	49.1	49.5	48.2	40.9	40.8
自己資本利益率 (%)	3.66	-	-	-	-
株価収益率 (倍)	21.74	-	-	-	-
配当性向 (%)	68.7	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	655,010	125,584	44,821	150,556	17,482
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	57,729	353,129	354,332	126,032	453,995
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	9,316	109,326	41,314	382,190	281,899
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,865,423	1,528,814	1,178,106	1,072,701	1,262,359
従業員数 (人)	1,634	1,557	1,545	1,579	1,543
[外、平均臨時雇用者数]	[176]	[173]	[175]	[182]	[181]

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、該当事項がないため記載しておりません。
4. 第38期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、第39期、第40期、第41期及び第42期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 第39期及び第40期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失のため、第41期及び第42期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、無配であり又、当期純損失のため記載しておりません。

## 2【沿革】

年月	事項
昭和50年 9月	美容室経営を目的として、「株式会社ビューティショップ田谷」（資本金5,000千円）を設立。
昭和58年 4月	「有限会社田谷哲哉美容室」及び「有限会社田谷」の営業を譲受。
4月	神奈川県横浜市青葉区内にT A Y A青葉台店を開設。神奈川県に進出。
4月	商号を「株式会社田谷」に変更。
昭和61年 4月	神奈川県横浜市にトレーニングセンターを開設。
昭和63年 3月	千葉県市川市内にT A Y A本八幡店を開設。千葉県に進出。
平成元年 4月	東京都千代田区内に「株式会社エムズ（後の株式会社エバンジェ・タヤ）」を設立。
平成 3年 7月	東京都渋谷区内に米国人アランエドワーズと合併で、外国人向け美容室経営を目的として、「株式会社アランエドワーズジャパン」を設立。
	日本初の外国人専用美容室として東京都港区内に「アランエドワーズサロントーキョー」を開設。
10月	東京都渋谷区内に仏国クレージュデザイン社と合併で、同社の商品販売と美容室の併合店舗のフランチャイズチェーン展開を目的として、「株式会社シー・ビー・ジェイ」を設立。
平成 4年12月	福岡県内で美容室経営をしている関係会社の「有限会社ビューティ田谷」の営業を譲受。
平成 5年 5月	新潟県新潟市内にクレージュ・サロン・ボーテ ラフォーレ原宿新潟店を開設。新潟県に進出。
8月	外国人向け美容室「株式会社アランエドワーズジャパン」の営業を譲受。
平成 6年 2月	東京都渋谷区神宮前六丁目10番11号に本社を移転。
10月	大阪府大阪市内にクレージュ・サロン・ボーテ 心斎橋そごう店を開設。大阪府に進出。
平成 7年 3月	京都府京都市内にクレージュ・サロン・ボーテ 北大路ビブレ店を開設。京都府に進出。
3月	北海道札幌市内にクレージュ・サロン・ボーテ 札幌大通店を開設。北海道に進出。
11月	埼玉県越谷市内にクレージュ・サロン・ボーテ 南越谷O P A店を開設。埼玉県に進出。
12月	デザイナーズブランド「クレージュ・サロン・ボーテ」のF C母体である「株式会社シー・ビー・ジェイ」を吸収合併。
平成 8年 9月	熊本県熊本市内にクレージュ・サロン・ボーテ 熊本下通店を開設。熊本県に進出。
11月	岡山県岡山市内にクレージュ・サロン・ボーテ 表町F i t Z店を開設。岡山県に進出。
平成 9年 3月	富山県富山市内にクレージュ・サロン・ボーテ 西武百貨店富山店を開設。富山県に進出。
4月	東京都中央区銀座に新タイプの大型サロンTAYA&CO.GINZA 銀座本店を開設。
4月	香川県高松市内にクレージュ・サロン・ボーテ コトデンそごう店を開設。香川県に進出。
4月	広島県広島市内にクレージュ・サロン・ボーテ 広島ウィズワンダーランド店を開設。広島県に進出。
9月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
9月	米国バンブル アンド バンブル社との提携により、東京都渋谷区内にBumble and bumble.NEW YORK 表参道ビブレ店を開設。
10月	兵庫県明石市内にクレージュ・サロン・ボーテ 明石ビブレ店を開設。兵庫県に進出。
平成10年 8月	プロユースのヘアケア商品の販売を目的とした小売店beautiful hair 心斎橋オーパ店を大阪府大阪市内に開設。
9月	東京都中央区内に日本初のヘアカラー専門美容室Highlight GALLERY 銀座店を開設。
10月	米国カペリプント サロン/スパとの提携により、東京都中央区内にCapelli Punto N.Y.オペークギンザ店を開設。
11月	福岡県中間市内にファミリーを対象とした低価格美容室Shampoo 中間店を開設。
平成11年 4月	株式会社エバンジェ・タヤを吸収合併。
	愛知県名古屋市内にTAYA&CO.GINZA 名古屋栄店を開設。愛知県に進出。
12月	東京証券取引所市場第二部へ株式を上場。
平成12年 3月	東京都渋谷区神宮前二丁目18番19号に本社ビルを竣工、同所へ本社を移転。
4月	長崎県長崎市内にShampoo 長崎夢彩都店を開設。長崎県に進出。

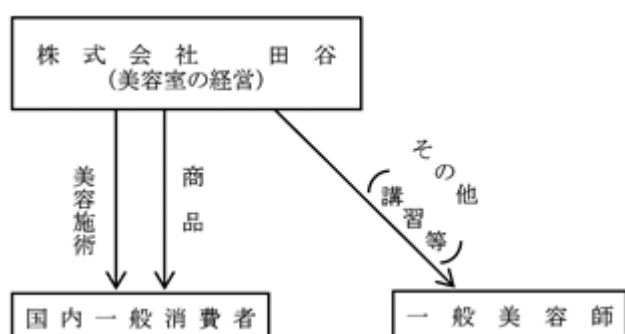
年月	事項
平成12年 4月	宮城県仙台市内にTAYA 仙台141店を開設。宮城県に進出。
6月	岐阜県大垣市内にShampoo ヤナゲン大垣店を開設。岐阜県に進出。
8月	愛媛県松山市内にShampoo 銀天街GET店を開設。愛媛県に進出。
平成13年 1月	青森県青森市内にShampoo 青森アウガ店を開設。青森県に進出。
1月	三重県四日市市内にShampoo イオン四日市北S C店を開設。三重県に進出。
4月	大分県下毛郡にShampoo イオン三光S C店を開設。大分県に進出。
5月	福島県郡山市内にTAYA アティ郡山店を開設。福島県に進出。
11月	東京証券取引所市場第一部へ株式を上場。
平成15年 6月	ヘアケア商品の販売の目的とし、インターネット通販「楽天市場」へ出店。
9月	米国バンプル アンド バンプル社との契約満了により、「Bumble and bumble.NEWYORK」ブランドのサロン展開を終了。
平成16年 4月	香川県高松市内のTAYA 高松OPA店を閉鎖。香川県から撤退。
6月	青森県青森市内のShampoo 青森アウガ店を閉鎖。青森県から撤退。
11月	ベルギー国C A D S インターナショナル社との提携により大阪府大阪市内にMICHEL DERYVNハービスP L A Z Aエント店を開設。
11月	岡山県岡山市内のShampoo 岡山LOTZ店を閉鎖。岡山県から撤退。
平成17年 3月	東京都中央区銀座に新タイプの大型サロンGRAND TAYAを開設。
8月	福島県郡山市内のTAYA アティ郡山店を閉鎖。福島県から撤退。
平成18年 3月	富山県富山市内のTAYA 西武百貨店富山店を閉鎖。富山県から撤退。
平成19年10月	O E M商品のスキンケア化粧品「トゥール・ザン・レール」シリーズの販売を開始。
平成21年 9月	ヘアケア商品の販売を目的とし、通販サイト「YAHOO!ショッピング」へ出店。
平成26年 3月	愛媛県新居浜市のShampoo イオンモール新居浜店を閉鎖。愛媛県から撤退。

### 3【事業の内容】

当社は、「美容師法」に基づき美容室（美容師法では「美容所」という）の経営をしており、その美容室において国家資格を有する美容師が美容施術（カット、パーマ、カラー等の施術）の提供を行っており、また、お客様に合ったヘアケア商品の販売を行っております。

美容室として「TAYA」「クレージュ・サロン・ボーテ」「TAYA&CO.GINZA」「Capelli Punto N.Y.」「Shampoo」「MICHEL DERYVN」のブランドで全国展開を行い、お客様のニーズにお応えしております。

#### 〔事業系統図〕



（注） 当社は売上の取扱区分として、下表のとおり区別しております。

取扱区分	主要内容
美容施術	カット、パーマ、カラー等の施術
商品	ヘアケア商品、化粧品の販売
その他	講習、セミナー、ショー等の収入

#### 4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

#### 5【従業員の状況】

##### (1) 提出会社の状況

平成28年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（才）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
1,543（181）	29.2	6.7	3,089,817

セグメント情報を記載していないため、部門別の従業員数を示すと次のとおりであります。

部門の名称	従業員数（人）
営業店舗部門	1,439（181）
本社・支社部門	104（ ）
合計	1,543（181）

（注）1．従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当事業年度の各月末日在籍者の平均人員を（ ）内に外数で記載しております。

2．平均年間給与は、支給実績であり、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

##### (2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当事業年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善傾向が進み景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、中国を始めとするアジア新興国等の景気減速に加え、為替や株価の変動懸念などもあり景気の先行き不透明な状況であります。

美容業界におきましては、物価上昇による消費者の節約志向や、業界内の店舗間競争激化、労働需給逼迫による美容師の確保難など、極めて厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下、当社といたしましては『お客様が毎日どこでも綺麗でいていただける』ために、全社員が行動し、「すべてはお客様のために」という当社経営の原点を徹底することで、「失客を失くし増客を図り」、お客様に喜んでいただくサロンづくりを目指して、当社の持つ「お客様に対する特典」をすべてのお客様にお伝えしご利用を促し、また当社オリジナルの商品・サービス等の提供に努めてまいりました。

店舗につきましては、美容室2店舗（TAYA 神戸元町店、TAYA テラッソ姫路店）を新規出店いたしました。一方で美容室8店舗（TAYA 神戸店、TAYA 広島ACCES店、TAYA 丸井吉祥寺店、TAYA西武春日部店、Shampoo 鶴見店、Shampoo西武小田原店、クレージュ・サロン・ボーテ 松戸店、クレージュ・サロン・ボーテ 北大路ビブレ店）を閉鎖し、当事業年度末の店舗数は、美容室143店舗と小売店1店舗となりました。

これらの施策により、既存店ベースで入客数は前期比1.7%増、客単価も前期比1.2%増とし、既存店売上高は前期比2.9%増となりましたが、新規客の減少や来店周期の伸び等など増客面において十分な成果を上げるまでに至っておらず、当事業年度における売上高は11,843百万円（前期比0.7%増）となりました。

利益面につきましては、人件費の増加や店舗閉鎖費用等もありましたが、美容材料の適正量使用や広告宣伝費等のコスト削減に努め、営業損失は231百万円（前期は営業損失421百万円）、経常損失は228百万円（前期は経常損失409百万円）となり、赤字幅は縮小したものの、誠に遺憾ながら3期連続の赤字となりました。店舗閉鎖に伴う固定資産除却損や不採算店舗の減損損失を特別損失に計上し、一方で、所有不動産の譲渡に伴う売却益や店舗退店補償金収入を特別利益に計上したことにより、当期純損失は182百万円（前期は当期純損失892百万円）となりました。

#### (2)キャッシュ・フロー

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ189百万円増加し、1,262百万円となりました。

また、当事業年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、営業活動の結果獲得した資金は17百万円（前年同期は150百万円の獲得）となりました。

これは主に、税引前当期純損失125百万円、有形固定資産売却益103百万円、法人税等の支払額60百万円、仕入債務の減少28百万円があったことに対し、減価償却費261百万円、退職給付引当金の増加32百万円、未払金の増加26百万円があったことによるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、投資活動の結果獲得した資金は453百万円（前年同期は126百万円の獲得）となりました。

これは主に、有形固定資産の売却による収入341百万円、店舗閉鎖等による敷金及び保証金の回収による収入218百万円、投資有価証券の償還による収入100百万円あったものの、新規出店、改装にともなう有形固定資産の取得による支出171百万円、敷金及び保証金の差入による支出43百万円があったことによるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、財務活動の結果使用した資金は281百万円（前年同期は382百万円の使用）となりました。

これは主に、預り保証金の返還による支出125百万円、社債の償還による支出70百万円、長短借入金の純減64百万円があったことによるものであります。

## 2【仕入及び販売の状況】

### (1) 仕入実績

#### 商品及び美容材料の仕入実績

区分	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	前年同期比(%)
商品(千円)	648,162	101.4
美容材料(千円)	470,628	96.3
合計(千円)	1,118,791	99.2

(注) 1. 金額は実際仕入価格で表示しております。  
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 販売実績

取扱区分別	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	前年同期比(%)
美容施術(千円)	10,428,671	100.4
商品(千円)	1,377,110	102.9
その他(千円)	37,832	88.9
合計(千円)	11,843,613	100.7

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 都道府県別売上高

都道府県	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		
	売上高(千円)	構成比(%)	前年同期比(%)
北海道	77,908	0.7	100.7
宮城県	118,497	1.0	108.4
埼玉県	300,351	2.5	99.2
千葉県	1,059,758	8.9	99.0
東京都	4,000,228	33.8	100.1
神奈川県	2,393,410	20.2	100.5
新潟県	92,293	0.8	89.1
岐阜県	37,161	0.3	102.4
愛知県	116,000	1.0	102.9
三重県	49,417	0.4	106.2
京都府	328,898	2.8	97.6
大阪府	810,858	6.8	100.4
兵庫県	337,975	2.9	114.6
広島県	115,815	1.0	87.5



都道府県	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		
	売上高(千円)	構成比(%)	前年同期比(%)
福岡県	1,484,700	12.5	103.0
長崎県	57,895	0.5	105.8
熊本県	189,382	1.6	101.6
大分県	95,705	0.8	100.2
店舗合計	11,666,259	98.5	100.7
本社	177,353	1.5	100.6
合計	11,843,613	100.0	100.7

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(4)美容室の顧客収容能力及び入客実績

都道府県	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)				当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)			
	椅子数 (席)	構成比 (%)	来店客数 (人)	構成比 (%)	椅子数 (席)	構成比 (%)	来店客数 (人)	構成比 (%)
北海道	9,075	1.2	16,120	1.0	9,125	1.2	16,470	1.0
宮城県	7,976	1.1	16,650	1.0	7,998	1.1	17,752	1.1
埼玉県	20,703	2.7	37,970	2.3	20,184	2.8	36,754	2.3
千葉県	66,879	8.9	126,339	7.7	60,419	8.4	124,102	7.6
東京都	237,078	31.5	504,813	30.9	224,762	31.1	498,545	30.7
神奈川県	148,990	19.8	333,043	20.3	145,385	20.1	325,823	20.0
新潟県	11,979	1.6	23,516	1.4	12,012	1.7	21,240	1.3
岐阜県	4,332	0.6	11,859	0.7	4,344	0.6	12,066	0.7
愛知県	8,012	1.1	17,181	1.1	8,034	1.1	17,698	1.1
三重県	4,732	0.6	14,404	0.9	4,745	0.7	14,676	0.9
京都府	21,111	2.8	46,553	2.9	20,766	2.9	44,957	2.8
大阪府	47,919	6.4	121,029	7.4	48,051	6.7	121,380	7.5
兵庫県	29,391	3.9	47,668	2.9	26,339	3.7	53,443	3.3
広島県	13,401	1.8	17,378	1.1	7,993	1.1	15,095	0.9
福岡県	97,148	12.9	225,104	13.8	97,776	13.6	229,544	14.1
長崎県	4,745	0.6	16,766	1.0	4,758	0.6	17,319	1.1
熊本県	10,164	1.3	24,331	1.5	10,192	1.4	24,394	1.5
大分県	8,734	1.2	34,397	2.1	8,771	1.2	34,593	2.1
合計	752,369	100.0	1,635,121	100.0	721,654	100.0	1,625,851	100.0

(注) 椅子数につきましては、各店舗のセット椅子数に当期の営業日数を乗じて算出しております。

### 3【対処すべき課題】

当社は、企業理念に従い年齢・性別・国籍を問わずより多くの人々に喜んでいただける環境を創造し続け、ヘアビジネスにおけるリーディングカンパニーとして、多様化する消費者ニーズや変化する消費者のライフスタイルに応え、新技術の開発、社員の教育、情報の発信、店舗の拡大および合理的なコスト削減を継続的に実施することを重点課題とし、収益性と成長性を同時に追求できる経営を進めてまいります。

また、コンプライアンスを重視し、内部統制システムの一層の充実を図り、経済構造および社会情勢等の経営環境の変化に対し迅速かつ柔軟に対応できるよう、企業体質の改善、強化に努めてまいります。

### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 会社がとっている特異な経営方針

当社の事業展開にあたっては、国家資格を有する美容師の採用が不可欠です。当社はサービスの質の維持あるいは向上の為にこうした有資格者を原則正社員として採用し、研修施設や各拠点にて新入社員研修、中途採用社員研修等を行った上で業務を担当させておりますが、人材採用や教育研修が計画通りに進まない場合には、当社の事業展開や経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### (2) 財政状態及び経営成績の異常な変動に係るもの

当社の売上高は、季節感を強く感じる夏季の7月、冬季の12月、及び学校や会社の入園・入学・卒業・歓迎会等にあたる3月に、他の月に比べて高くなる傾向があります。反面、冷夏、暖冬、長雨、台風等の天候不順は当社の事業展開や経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### (3) 特定の取引先等で取引の継続性が不安定であるものへの高い依存度に係るもの

当社の事業展開にあたり、店舗形態としては、自己所有物件よりも賃借物件やインショップ物件が多い傾向にあります。現時点では賃借先・デベロッパーと当社との関係は良好であります。将来的にこれら相手先の事業継続が危ぶまれる事態が生じた場合は、敷金保証金の貸倒発生や当社店舗の撤退・営業継続不能等も考えられ、事業展開や経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (4) 特定の製品、技術等で将来性が不明確であるものへの高い依存度に係るもの

当社の事業展開上、上述のように国家資格を有する美容師、かつ、顧客からの支持の高い者の業務従事が重要と考えております。仮に当社から、これらの者が大量に離職した場合は、当社の事業展開や経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### (5) 特有の法的規制等に係るもの

当社の行う事業に適用される美容師法は、社会情勢の変化等に応じて今後も適宜、改正ないし解釈の変更等が行われる可能性があります。その場合は当社の行う事業に影響を与える可能性があります。

#### (6) 個人情報の管理に係るもの

顧客データベースへのアクセス環境、セキュリティシステムの改善を常に図り、個人情報保護に万全を期しておりますが、これに加えて情報の取り扱いに対する意識の向上を目的とした社員教育の徹底や、情報へのアクセス者の限定、牽制システムの構築等、内部の管理体制についても強化しております。

今後も個人情報の管理は徹底してまいります。個人情報が流出した場合には、当社の事業展開や経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

#### (7) 減損会計に係るもの

当社の保有資産につきまして、実質的価値の低下等による減損処理が必要になった場合、当社の経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (8) 継続企業の前提に関する重要事象等について

当社は、当事業年度において、3期連続の営業損失および経常損失を計上することとなり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、「7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】(7)継続企業の前提に関する重要事項等を改善するための対応策等」に記載のとおり、当事業年度における資金状況及び今後の資金繰りに懸念はなく、当該重要事象を解消するための対応策を推進することにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

## 5【経営上の重要な契約等】

### ライセンス契約

相手先の名称	グループクレージュS.A.S（フランス）
契約品目	クレージュの商標及びサービスマークの使用
契約内容	日本国内において、当社が「クレージュ・サロン・ボーテ」という名称の美容サロンを運営、プロモーション及び広告をする際に、グループクレージュ社の所有する商標及びサービスマークを使用させる。
契約期間	2015年1月1日から2017年12月31日まで
ロイヤリティ	年度毎に定額

（注）ロイヤリティは、販売費及び一般管理費に計上しております。

相手先の名称	C A D S インターナショナル（ベルギー）
契約品目	MICHEL DERVYNの商標及びノウハウの使用
契約内容	日本国内において、当社が「MICHEL DERVYN」という名称の美容サロンを運営、プロモーション及び広告する際に、C A D S インターナショナル社が所有する商標及びノウハウを使用させる。
契約期間	2014年11月1日から2019年10月31日まで
ロイヤリティ	年度毎に定額

（注）ロイヤリティは、販売費及び一般管理費に計上しております。

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

### (2) 当事業年度の経営成績の分析

当事業年度においては、物価上昇による消費者の節約志向や、店舗間競争の激化、労働需給逼迫による美容師の確保難など経営環境は極めて厳しい状況が続く中、「失客を失くして増客を図る」ため、当社のサロンを利用頂くメリットである「お客様に対する田谷の三大特典」を全てのお客様にお伝えするとともに、「お客様が毎日どこでも綺麗でいていただける」ための美容施術の提案や商品の提供を行い、当社サロンのご利用促進に努めてまいりました。

また、美容室店舗につきましては、2店舗の新規出店と8店舗の閉鎖を行いました。

この結果、既存店ベースで入客数は前期比1.7%増加、客単価も前期比1.2%増加し、既存店売上高は前期比2.9%増加いたしました。全社では店舗閉鎖等もあり、当事業年度における当社の売上高は11,843百万円（前事業年度比0.7%増）となりました。

利益面につきましては、人件費の増加や店舗閉鎖費用等もありましたが、美容材料の適正量使用や広告宣伝費等のコスト削減に努め、営業損失は231百万円（前事業年度は営業損失421百万円）、経常損失は228百万円（前事業年度は経常損失409百万円）と前事業年度より赤字幅は縮小したものの、誠に遺憾ながら3期連続の赤字となりました。店舗閉鎖に伴う固定資産除却損や不採算店舗の減損損失を特別損失に計上し、一方で、所有不動産の譲渡に伴う売却益や店舗退店補償金収入を特別利益に計上したことにより、当期純損失は182百万円（前事業年度は当期純損失892百万円）となりました。

### (3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社の事業においては、人件費や店舗運営維持に係る経費等の固定費比率が高いため、一定水準を越える売上を確保できれば大きく利益に寄与できるものの、反面売上が計画どおりにいかない場合は、それに伴う経費圧縮が困難となり、適正な利益水準を維持することが難しくなります。

### (4) 経営戦略の現状と見通し

当社は、確固とした企業体質を構築するため、平成32年3月期を目標年度とする中長期経営計画『MLP 2019』を策定し、「人材育成の充実、提供サービスの品質向上」「事業基盤の強化」「成長戦略への展開」を計画の基本方針として各取り組み施策を実施してまいりましたが、この中長期経営計画の第1ステージの目標年度としている平成28年3月期において、計画値と実績とが大きく乖離いたしました。

営業推進の取り組みとして、当社は、「失客を失くし増客を図る」「新しい収益力を作る」「社員の明るい未来を創る」を三本柱として、『お客様が毎日どこでも綺麗でいていただける』ために、全社を挙げてお客様に喜んでいただけるサロンづくりを行ってまいりますが、同時に中長期経営計画の見直しを検討しており、当社の早期の業績回復と財政体質の強化を図るため、「経営資源の選択と集中」の観点から『人事施策』『営業施策』『店舗施策』を根本的に見直し、資源の最適配分を実施し経営の効率向上を果たすと同時に新しい収益力を作る当社の改革ビジョンを具現化した中期の抜本的改善計画を現在策定しております。

当該計画を速やかに取り纏めし完成次第、直ちに公表する予定であります。

### (5) 財政状態の分析

当事業年度末の総資産は6,798百万円となり、前事業年度末比430百万円の減少となりました。

流動資産の残高は2,375百万円（前事業年度末比10百万円増加）、固定資産の残高は4,422百万円（前事業年度末比440百万円減少）となりました。主な増加は、現金及び預金の増加141百万円、主な減少は、社員寮売却による土地の減少181百万円、敷金及び保証金の減少143百万円、店舗閉鎖、減損及び社員寮売却による建物の減少120百万円、有価証券の償還100百万円によるものであります。

当事業年度末の負債総額は4,022百万円となり、前事業年度末比247百万円の減少となりました。

流動負債の残高は2,595百万円（前事業年度末比344百万円増加）、固定負債の残高は1,427百万円（前事業年度末比592百万円減少）となりました。主な増加は退職給付引当金の増加32百万円、未払金の増加25百万円、未払法人税等の増加16百万円、主な減少は社債の償還70百万円、長短借入金の純減64百万円、支払手形の減少41百万円、固定負債その他に含めております預り保証金の返還125百万円であります。

当事業年度末の純資産は2,776百万円となり、前事業年度末比182百万円の減少となりました。以上の結果、自己資本比率は前事業年度末の40.9%から40.8%に減少いたしました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、1【業績等の概要】に記載しております。

( 6 ) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社の経営者は、現状認識と将来予測に基づき最良最善の営業戦略の推進と企業体質の強化に努めており、そのためには、「第2〔事業の状況〕3〔対処すべき課題〕」に記載しております課題に対処していくことが必要であると認識しております。

しかしながら、過当競争の激しい美容業界において当社を取り巻く経営環境は依然厳しさが続くものと予想されます。また、「第2〔事業の状況〕4〔事業等のリスク〕」で記載いたしました天候、個人消費動向等の外部要因が経営に重要な影響を与えるものとの認識もしております。

これらを踏まえ、「すべてはお客様のために」という経営の原点に立ち戻り、次の施策を重要ポイントとして内部充実を図り、業績の回復と安定した収益向上に取り組んでまいります。

優れた技術と優れたサービスを提供し、顧客満足度の向上を追求する。

顧客ニーズを的確に捉え、新スタイル、新商品、新サービスを開発し提供する。

優秀な人材の採用・教育を通して、営業力強化とサービス品質の向上を図る。

既存店の充実に特化し、効率的な経営資源の配分を行う。

社員が活き活きと働ける環境を整備し、お客様に支持されるサロン作りを行う。

上記 から までの重要施策を機動的且つ効率的に行えるように、「本店営業部」「関西支社」「九州支社」「営業統括管理部」「技術部」「マーケティング部」「人事部」「商事部」「経理部」「総務部」「経営企画部」の11部体制とし、「本店営業部」「関西支社」「九州支社」において全美容室を統轄し、個々の店舗環境に応じたきめ細やかな営業推進を図り、その他8部はそれぞれの立場から営業支援に努めることにより、全社一丸となった事業展開を行ってまいります。

( 7 ) 継続企業の前提に関する重要事象等を改善するための対応策等

当社は、「4〔事業等のリスク〕( 8 ) 継続企業の前提に関する重要事象等について」に記載のとおり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、当社は当事業年度における資金状況及び今後の資金繰りを検討した結果、当面は事業活動の継続性に懸念はなく、当該事象又は状況の解消を図るべく、「失客を失くし増客を図る」営業施策の更なる強化はもとより、人員の効率的な配置による生産性の向上、不採算店舗の統廃合や在庫の適正化や資産の売却、設備投資の抑制等に取り組んでおります。また、上記の諸施策も含む中期の抜本的改善計画を現在策定中であります（完成次第公表予定）。

これらにより収益力の改善に努め、現在の金融機関との良好な取引関係を維持していくことで今後の財務面に支障はなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

### 第 3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社では、販売の拡大を図るべく美容室 2 店舗の新規出店と既存店 3 店舗の改装及び 1 店舗の移転を実施いたしました。

この結果、第42期の設備投資の総額は230百万円となりました。なお、この投資総額には、リース資産、敷金及び保証金への投資を含めておりますが、資産除去債務に関する会計基準の適用により計上することとなる除去費用相当額（固定資産増加額）は含めておりません。

## 2【主要な設備の状況】

平成28年3月31日現在

事業所名 （所在地）		建物		構築物 （千円）	工具、器具 及び備品 （千円）	土地		リース資産 （千円）	投下資本計 （千円）	従業員数 （人）
		面積（㎡）	（千円）			面積（㎡）	（千円）			
営 業 店 舗	北海道 （ 2 店舗）	（ 223.9 ）	6,265	-	-	-	-	-	6,265	14
	宮城県 （ 2 店舗）	（ 326.1 ）	32,539	-	-	-	-	1,907	34,446	21
	埼玉県 （ 3 店舗）	（ 485.3 ）	13,762	-	-	-	-	-	13,762	34
	千葉県 （ 11店舗）	135.5 （ 1,665.9 ）	115,953	339	0	330.8	51,244	2,591	170,127	135
	東京都 （ 45店舗）	（ 6,809.5 ）	238,066	-	109	-	-	11,291	249,467	445
	神奈川県 （ 29店舗）	412.5 （ 4,049.7 ）	303,393	215	0	305.4	162,789	8,268	474,666	268
	新潟県 （ 2 店舗）	（ 441.1 ）	0	-	-	-	-	-	0	17
	岐阜県 （ 1 店舗）	（ 125.8 ）	1,213	-	0	-	-	-	1,213	6
	愛知県 （ 2 店舗）	（ 244.4 ）	11,754	-	-	-	-	1,212	12,966	14
	三重県 （ 1 店舗）	（ 118.0 ）	569	-	-	-	-	-	569	9
	京都府 （ 3 店舗）	（ 446.4 ）	7,248	-	-	-	-	-	7,248	44
	大阪府 （ 8 店舗）	（ 1,441.0 ）	33,153	-	0	-	-	323	33,477	105
	兵庫県 （ 6 店舗）	（ 813.2 ）	76,418	-	6	-	-	8,332	84,757	53
	広島県 （ 2 店舗）	（ 251.7 ）	16,254	-	-	-	-	-	16,254	13
	福岡県 （ 22店舗）	144.8 （ 2,990.8 ）	142,386	947	0	521.1	65,000	1,433	209,768	208
	長崎県 （ 1 店舗）	（ 127.0 ）	886	-	-	-	-	-	886	5
	熊本県 （ 2 店舗）	（ 512.6 ）	17,610	225	0	-	-	-	17,835	29
	大分県 （ 2 店舗）	（ 274.1 ）	4,540	-	-	-	-	-	4,540	13

事業所名 (所在地)		建物		構築物 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	土地		リース資産 (千円)	投下資本計 (千円)	従業員数 (人)
		面積 (㎡)	(千円)			面積 (㎡)	(千円)			
事 務 所 そ の 他	本社 (東京都渋谷区)	1,903.4	255,466	1,134	258	792.1	889,065	13,747	1,159,672	87
	関西支社 (大阪市中央区)	(313.8)	9,036	-	0	-	-	-	9,036	11
	九州支社 (福岡市博多区)	(273.4)	-	-	0	-	-	-	0	12
	保養施設 (北海道旭川市 他2ヶ所)	283.2	13,756	-	-	4,475.7	25,405	-	39,162	-
総計		2,879.4 (21,933.7)	1,300,277	2,861	374	6,425.1	1,193,505	49,106	2,546,124	1,543

- (注) 1. 金額は帳簿価額であり、建設仮勘定は含まれておりません。  
2. 建物の面積の( )内は賃借中のものであり、外書で表示しております。  
3. 従業員数には、臨時従業員(パートタイマー)181名は含まれておりません。  
4. 東京都には小売店1店舗が含まれております。



### 3【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 設備の新設、改修等

事業所名	設備内容	必要性	予定金額 (千円)	既支払額 (千円)	今後の 所要額 (千円)	着手年月	完成予定年月	収容能力
クレージュ・サロン・ ポーテ アトレ大井町店	美容室店舗 (賃借)	ブランド転換	25,620	-	25,620	平成28年 1 月	平成28年 5 月	12席
合計			25,620	-	25,620			

(注) 1. 今後の所要資金25,620千円は、リース取組2,160千円及び自己資金23,460千円により充当する予定であります。  
2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 設備の除却等

事業所名	設備内容	理由	除却予定 金額 (千円)	既除却額 (千円)	今後の 除却額 (千円)	着手年月	実行予定年月	収容能力
クレージュ・サロン・ ポーテ そごう柏店	美容室店舗 (賃借)	店舗閉鎖	6,658	-	6,658	平成28年 3 月	平成28年 9 月	16席
合計			6,658	-	6,658			

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成28年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年6月22日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	5,100,000	5,100,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	5,100,000	5,100,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成11年12月6日 (注)	600,000	5,100,000	859,800	1,480,180	859,800	1,702,245

##### (注)一般募集

発行価格 2,866円 資本組入額 1,433円

払込金総額 1,719,600千円

( 6 ) 【所有者別状況】

平成28年 3 月31日現在

区分	株式の状況（１単元の株式数100株）							単元未満株式の状況（株）	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	-	22	19	57	21	4	9,354	9,477	-
所有株式数（単元）	-	4,503	176	18,130	476	5	27,699	50,989	1,100
所有株式数の割合（％）	-	8.83	0.35	35.57	0.93	0.01	54.31	100.0	-

( 注 ) 自己株式102,946株は「個人その他」に1,029単元、「単元未満株式の状況」に46株を含めて記載しております。

( 7 ) 【大株主の状況】

平成28年 3 月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 ( 千株 )	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 ( % )
有限会社ティーズ	横浜市青葉区美しが丘西 3 - 8 - 26	1,627	31.90
田谷 哲哉	横浜市青葉区	152	2.99
株式会社赤城自動車教習所	群馬県伊勢崎市赤堀今井町 1 - 564	136	2.67
株式会社田谷	東京都渋谷区神宮前 2 - 18 - 19	102	2.01
佐藤 桂子	東京都千代田区	69	1.35
T A Y A 社員持株会	東京都渋谷区神宮前 2 - 18 - 19	67	1.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	東京都中央区晴海 1 - 8 - 11	58	1.14
田谷 和正	横浜市青葉区	57	1.12
浜野 統一	千葉県大網白里市	57	1.12
田谷 仁	千葉県成田市	50	0.98
計	-	2,379	46.64

( 注 ) 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、58千株であります。

( 8 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年 3 月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 102,900	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 4,996,000	49,960	-
単元未満株式	普通株式1,100	-	-
発行済株式総数	5,100,000	-	-
総株主の議決権	-	49,960	-

【自己株式等】

平成28年 3 月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社田谷	東京都渋谷区神宮前2-18-19	102,900	-	102,900	2.01
計	-	102,900	-	102,900	2.01

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	10	7,790
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成28年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	102,946	-	102,946	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成28年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社は、業容の拡充に努めるとともに、株主の皆様に対し安定的な配当を継続して実施しつつ、業績に応じた利益還元を行うことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、年1回の期末配当を基本的な方針としており、配当の決定機関は株主総会であります。また、当社は、取締役会の決議によって会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

しかしながら、当事業年度の配当につきましては、業績を鑑み、無配とすることを決定いたしました。

なお、内部留保資金につきましては、財務体質の強化を図るとともに今後の事業拡充のための資金需要に備える所存であります。

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第38期	第39期	第40期	第41期	第42期
決算年月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
最高(円)	777	780	820	858	873
最低(円)	641	659	701	722	638

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成27年10月	11月	12月	平成28年1月	2月	3月
最高(円)	724	710	701	697	715	722
最低(円)	700	680	677	652	638	668

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

## 5【役員の状況】

男性8名 女性0名（役員のうち女性の比率0%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有 株式数 (千株)
代表取締役 会長		田 谷 和正	昭和42年7月7日生	昭和63年4月 株式会社日本旅行入社 平成3年6月 当社入社 平成7年7月 クレージュサロン営業部長 平成8年6月 取締役就任 平成9年6月 常務取締役就任 平成15年4月 代表取締役社長就任 平成28年6月 代表取締役会長就任(現任)	注4	57
代表取締役 社長		保 科 匡邦	昭和33年1月22日生	昭和56年4月 当社入社 平成2年9月 エリア支配人 平成5年2月 取締役就任 平成7年7月 常務取締役就任 平成9年6月 専務取締役就任 平成15年4月 取締役副社長就任 平成16年4月 取締役就任 平成17年4月 九州支社長 平成18年6月 取締役専務執行役員就任 平成21年4月 技術教育部長 平成25年4月 取締役副社長執行役員人事部長就任 平成28年4月 取締役副社長就任 平成28年6月 代表取締役社長就任(現任)	注4	10
取締役副社長		田 代 久士	昭和33年10月9日生	昭和63年10月 株式会社日本レジホンシステムズ入社 平成4年4月 当社入社 平成6年9月 経営企画室長 平成7年6月 取締役就任 平成9年6月 常務取締役就任 平成15年4月 取締役副社長就任 平成16年4月 取締役就任 平成17年4月 経営企画推進室長 平成18年6月 取締役専務執行役員就任 平成20年4月 経営戦略室長 平成21年4月 経営企画推進室長 平成25年4月 取締役副社長執行役員就任 平成28年4月 取締役副社長就任(現任)	注4	9
専務取締役		竹 知 城治	昭和36年7月20日生	昭和56年4月 当社入社 平成3年9月 エリア支配人 平成8年6月 取締役就任 平成15年4月 常務取締役就任 平成16年4月 取締役就任 平成17年4月 マーケティング部長 平成18年6月 取締役常務執行役員就任 平成25年4月 専務取締役執行役員就任 平成26年4月 営業部長兼営業部第1グループ長 平成28年4月 専務取締役就任(現任)	注4	5
常務取締役		田 谷 光正	昭和44年5月21日生	平成4年4月 住銀リース株式会社入社 平成11年4月 当社入社 平成11年6月 商事部長 平成12年6月 取締役就任 平成13年4月 西日本支社長 平成17年4月 総務部長 平成18年6月 常務執行役員就任 平成21年4月 管理部長兼管理部総務グループ長 平成21年6月 取締役常務執行役員就任 平成25年6月 常務取締役執行役員就任 平成28年4月 常務取締役就任(現任)	注4	24

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有 株式数 (千株)
取締役 (監査等委員)		石川 英夫	昭和32年 3 月 2 日生	昭和53年 3 月 当社入社 平成13年 4 月 営業本部業務担当部長 平成18年 6 月 執行役員第 3 事業部長 平成21年 4 月 執行役員営業部営業管理グループ長 平成23年 6 月 当社常勤監査役就任 平成28年 6 月 取締役(監査等委員)就任(現任)	注 5	5
取締役 (監査等委員)		三 亀 孝雄	昭和24年 3 月 9 日生	昭和47年 4 月 株式会社第一勧業銀行入行 平成 6 年 5 月 同行原宿支店長 平成 8 年 4 月 同行静岡支店長 平成10年 9 月 同行審査部審査役 平成12年 4 月 同行池袋西口支店長 平成14年 4 月 株式会社第一勧銀情報システム取締役企画本 部長兼人事総務副本部長 平成16年10月 株式会社みずほ情報総研執行役員人事部副部 長 平成20年 6 月 株式会社キュービタス常勤監査役 平成27年 6 月 取締役就任 平成28年 6 月 取締役(監査等委員)就任(現任)	注 5	-
取締役 (監査等委員)		田 島 克夫	昭和33年 5 月12日生	昭和62年 8 月 公認会計士登録 昭和63年 8 月 公認会計士田島事務所開設 平成18年 6 月 当社監査役就任 平成28年 6 月 取締役(監査等委員)就任(現任)	注 5	-
計						110

- (注) 1. 平成28年 6 月21日開催の定時株主総会において定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって  
監査等委員会設置会社へ移行しました。
2. 取締役三亀孝雄、田島克夫は、社外取締役であります。
3. 常務取締役 田谷 光正は、代表取締役会長 田谷 和正の実弟であります。
4. 監査等委員以外の取締役の任期は、平成28年 3 月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年 3 月期に係る  
定時株主総会終結の時までであります。
5. 監査等委員である取締役の任期は、平成28年 3 月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年 3 月期に係る  
定時株主総会終結の時までであります。
6. 監査等委員会の体制は、次のとおりであります。
- 委員長 石川英夫 委員 三亀孝雄 委員 田島克夫

当社は、経営環境の変化に的確かつ迅速に対応するため、取締役会の改革を行い、平成18年 6 月より執行役員制  
度を導入しております。

提出日現在の執行役員の状況は以下のとおりであります。

役名	氏名	役職
専務執行役員	上原 俊晴	商事部長
常務執行役員	新藤 和久	人事部長
常務執行役員	佐藤 陽子	本店営業部長
執行役員	水上 俊郎	関西支社長
執行役員	似鳥 昭司	営業統括管理部長
執行役員	露木 康雄	経理部長
執行役員	梅松 直人	技術部長
執行役員	中村 隆昌	経営企画部長
執行役員	青野 ゆかり	九州支社長
執行役員	板谷 敦子	マーケティング部長
執行役員	高橋 克訓	総務部長



## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### <コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方>

当社は、健全かつ透明性が高く、経営環境の変化に即応し、迅速かつ適切な意思決定ができる組織体制の確立を極めて重要な経営課題の一つと考えております。

#### 企業統治の体制

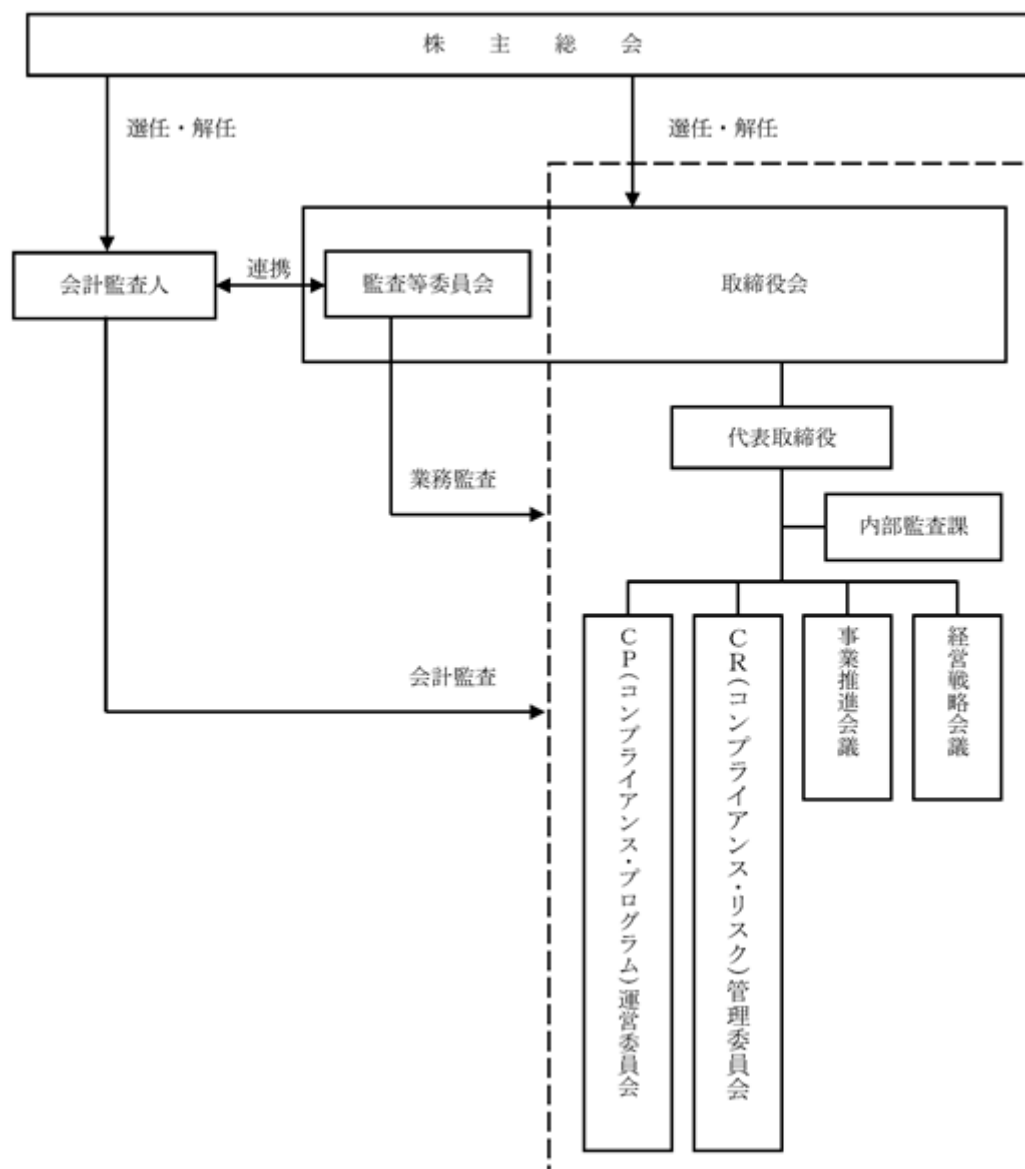
##### イ．企業統治の体制の概要

当社は、監査等委員会設置会社であり、取締役会、監査等委員会、会計監査人を設置しております。取締役会は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）5名、監査等委員である取締役は3名（常勤1名と非常勤2名）で、うち2名は社外取締役であります。月1回定時取締役会を、また必要に応じて臨時取締役会を開催し、充分審議したうえで経営上の意思決定を行っております。また、「経営戦略会議」「事業推進会議」を各々月1回開催しており、迅速且つ現場に根付いた経営判断ができるようにしております。

なお、コーポレート・ガバナンスの一層の強化を図るため執行役員制度を導入しております。本制度では、取締役会の「経営の意思決定」「執行監督機能」と執行役員の「業務執行機能」を明確に分離し、取締役会は監査等委員会の監督・監査を受けて経営方針などを審議・決定する機関、執行役員は会社の方針に基づき、会長及び社長の指揮監督のもと業務執行を担う役割と位置付けしております。

また、コンプライアンス全体を統括する組織として「C R（コンプライアンス・リスク）管理委員会」を設け、コンプライアンス体制の推進を図るとともに、個人情報保護に関しては「C P（コンプライアンス・プログラム）運営委員会」を設け、適正な情報管理を常に心がけております。

##### ロ．会社の機関・内部統制の関係



#### ハ．企業統治の体制を採用する理由

当社は監査等委員会設置会社の形態を採用しております。監査等委員である取締役は3名（常勤1名と非常勤2名）で、うち2名は社外取締役であります。監査等委員である取締役は経営戦略会議その他の主要会議に出席するほか、当社の業務や財産状況の調査及び監査を実施し、取締役会の職務執行を監督しております。以上のことから、経営の監視の面では十分に機能する体制が整っていると考えております。

#### ニ．内部統制システムの整備の状況

会社における不祥事等のリスク発生を未然に防止するための内部統制システムとして経営企画部に内部監査課を設置し、業務活動の全般に関し、方針・計画・手続きの妥当性及業務実施の有効性、法律・法令の遵守状況等について内部監査を実施しており、業務の改善に向け、具体的な助言、勧告を行っております。

#### ホ．リスク管理体制の整備の状況

監査等委員である取締役のうち、社外取締役である三亀孝雄は銀行勤務での豊富な知識、経験を、田島克夫は公認会計士の資格を有しており、当社のコンプライアンス面の監督・指導につきましても、十分に機能しております。

#### ヘ．責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、監査等委員である取締役との間において、会社法423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は法令が定める最低責任限度額としております。

#### 内部監査及び監査役監査の状況

経営企画部内部監査課に所属する4名の内部監査人が、常時当社の諸業務が社内規程等に準拠し合法的かつ効率的に行われているかについて内部監査を実施し、改善すべき点の指摘・勧告、更には改善策の助言を行い、業務の質や効率の向上を図っております。内部監査の実施に際しては、年間実施計画書に基づき、所定の内部監査手続を実施し、その結果報告及び改善事項の提案等は社長に直接報告されるとともに、監査等委員である取締役及び会計監査人にも報告され相互に緊密な連携が保たれております。

また、常勤する監査等委員である取締役は、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、C R管理委員会、C P運営委員会、経営戦略会議、事業推進会議などの重要な会議に出席するとともに、稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じ、いつでも取締役または従業員に説明・報告を求めることができます。監査等委員である取締役は、会計監査人から会計監査内容、内部監査課から内部監査内容について説明を受けるとともにそれぞれとの情報交換を行い緊密な連携を図っております。

なお、監査等委員である取締役の三亀孝雄は銀行勤務での豊富な知識、経験を有しており、田島克夫は公認会計士の資格を有しております。

#### 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は荒木正博及び坂本恒夫であり、普賢監査法人に所属しております。また、会計監査業務に係る補助者は公認会計士4名であります。会計監査においては、会社法監査及び金融商品取引法監査を受けるとともに、社長及び担当役員とのディスカッションを通し、経営及び組織的な問題等において適宜アドバイスを受けております。

#### 社外取締役及び社外監査役

当社は、経営の意思決定機能と、執行役員による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、3名の監査等委員を選任し、そのうち2名を社外取締役とすることで、経営への監視機能を強化しております。

社外取締役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえ、当社経営陣から独立した立場で社外取締役としての職務を遂行できることを前提に判断しており、当社と社外取締役との間に人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係はありません。

コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外取締役による業務執行への監督、監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

## 役員報酬等

### イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	162,886	162,886	-	-	-	10
監査役 (社外監査役を除く。)	15,823	15,823	-	-	-	2
社外役員	10,860	10,860	-	-	-	5

### ロ. 役員報酬の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬等は、株主総会の決議によって定める旨定款に定めております。

取締役の報酬限度額は、平成5年11月21日開催の第19期定時株主総会において年額300百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。また、監査役の報酬限度額は、平成8年6月26日開催の第22期定時株主総会において年額30百万円以内と決議いただいております。

また、平成28年6月21日開催の第42期定時株主総会において、監査等委員会設置会社への移行に伴い、取締役(監査等委員であるものを除く。)の報酬限度額は年額300百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。また、監査等委員である取締役の報酬限度額については、年額30百万円以内と、決議いただいております。

この株主総会の決議により定められたそれぞれの報酬総額の上限額の範囲内において決定しております。

### 株式の保有状況

当社は株式を保有しておりません。

### 取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨定款に定めております。(当事業年度末現在)

なお、平成28年6月21日開催の第42期定時株主総会において、取締役(監査等委員である取締役を除く。)の員数を12名以内とし、監査等委員である取締役は3名とする定款変更の決議を行っております。

### 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

### 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

### 中間配当の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

( 2 ) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
21,600	-	21,600	-

【その他重要な報酬の内容】

（前事業年度）

該当事項はありません。

（当事業年度）

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

（前事業年度）

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務については該当事項はありません。

（当事業年度）

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務については該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としては、前期の執務実績日数等により算定した執務概算日数を基準にして決定しております。

## 第 5 【経理の状況】

### 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)の財務諸表について、普賢監査法人により監査を受けております。

### 連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

### 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保する為の特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、公益財団法人財務会計基準機構の行う研修等に参加しております。

## 1 【財務諸表等】

## ( 1 ) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年 3 月31日)	当事業年度 (平成28年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,397,762	1,539,061
売掛金	524,834	529,700
有価証券	100,000	-
商品	63,042	81,200
美容材料	24,910	34,974
貯蔵品	16,398	14,968
前払費用	122,378	115,087
その他	1 116,363	61,177
貸倒引当金	745	324
流動資産合計	2,364,944	2,375,845
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,330,056	4,252,749
減価償却累計額	2,909,346	2,952,472
建物（純額）	1 1,420,710	1 1,300,277
構築物	26,304	25,794
減価償却累計額	22,715	22,932
構築物（純額）	3,589	2,861
工具、器具及び備品	40,016	40,016
減価償却累計額	39,502	39,641
工具、器具及び備品（純額）	513	374
土地	1 1,375,445	1 1,193,505
リース資産	69,989	86,898
減価償却累計額	39,830	37,791
リース資産（純額）	30,158	49,106
有形固定資産合計	2,830,417	2,546,124
無形固定資産		
ソフトウェア	3,125	3,578
リース資産	7,476	2,199
その他	30,097	30,097
無形固定資産合計	40,700	35,875
投資その他の資産		
出資金	119	119
従業員に対する長期貸付金	2,030	865
長期前払費用	33,451	24,101
敷金及び保証金	1 1,949,544	1 1,806,505
その他	7,433	9,155
貸倒引当金	2	1
投資その他の資産合計	1,992,574	1,840,746
固定資産合計	4,863,692	4,422,746
資産合計	7,228,637	6,798,592

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	409,818	368,082
買掛金	73,381	76,605
短期借入金	1 86,800	1 101,800
1年内償還予定の社債	70,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	1 386,577	1 688,102
リース債務	17,712	18,470
未払金	117,727	143,500
未払費用	502,181	495,480
未払法人税等	79,092	95,717
未払消費税等	250,483	228,713
前受金	502	62
預り金	32,221	34,810
前受収益	1,119	-
賞与引当金	204,996	213,195
資産除去債務	17,832	5,049
その他	-	85,581
流動負債合計	2,250,445	2,595,172
<b>固定負債</b>		
社債	60,000	20,000
長期借入金	1 1,125,138	1 744,356
リース債務	19,786	32,751
繰延税金負債	12,204	10,053
退職給付引当金	382,718	415,516
資産除去債務	205,201	202,380
その他	214,652	2,015
固定負債合計	2,019,701	1,427,074
負債合計	4,270,147	4,022,247
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,480,180	1,480,180
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	1,702,245	1,702,245
資本剰余金合計	1,702,245	1,702,245
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	66,920	66,920
<b>その他利益剰余金</b>		
別途積立金	560,000	-
繰越利益剰余金	691,365	313,503
利益剰余金合計	64,445	246,583
自己株式	159,489	159,497
株主資本合計	2,958,489	2,776,344
純資産合計	2,958,489	2,776,344
負債純資産合計	7,228,637	6,798,592

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
売上高		
美容施術売上高	10,382,128	10,428,671
商品売上高	1,338,425	1,377,110
その他の売上高	42,554	37,832
売上高合計	11,763,108	11,843,613
売上原価		
美容施術売上原価	10,043,924	9,923,332
商品売上原価	612,636	630,004
その他の売上原価	22,273	18,166
売上原価合計	10,678,834	10,571,504
売上総利益	1,084,274	1,272,109
販売費及び一般管理費	1 1,505,276	1 1,503,686
営業損失( )	421,002	231,576
営業外収益		
受取利息	2,560	536
有価証券利息	752	31
受取配当金	905	-
不動産賃貸料	13,203	10,363
受取補償金	-	6,000
その他	36,767	22,940
営業外収益合計	54,188	39,871
営業外費用		
支払利息	22,877	21,218
社債利息	1,191	577
不動産賃貸費用	7,081	7,750
その他	11,897	7,451
営業外費用合計	43,048	36,998
経常損失( )	409,861	228,703
特別利益		
固定資産売却益	-	2 103,868
退店補償金	12,265	26,899
その他	76	-
特別利益合計	12,342	130,768
特別損失		
固定資産除却損	3 33,071	3 15,313
減損損失	4 43,734	4 11,969
特別損失合計	76,805	27,283
税引前当期純損失( )	474,324	125,217
法人税、住民税及び事業税	51,283	59,070
法人税等調整額	367,080	2,150
法人税等合計	418,363	56,919
当期純損失( )	892,688	182,137



【美容施術売上原価明細書】

		前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
美容材料費		488,092	4.9	460,564	4.6
労務費		5,556,330	55.3	5,611,578	56.6
経費		3,999,501	39.8	3,851,189	38.8
(減価償却費)		(278,495)	(2.8)	(232,488)	(2.3)
(地代家賃)		(2,017,258)	(20.1)	(1,961,901)	(19.8)
美容施術売上原価		10,043,924	100.0	9,923,332	100.0

(注) 美容施術売上原価は、店舗にかかわる費用であります。

【商品売上原価明細書】

		前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
区分	注記 番号	金額(千円)		金額(千円)	
商品期首たな卸高		36,332		63,042	
当期商品仕入高		639,345		648,162	
計		675,678		711,204	
商品期末たな卸高		63,042		81,200	
商品売上原価		612,636		630,004	

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,480,180	1,702,245	1,702,245	66,920	860,000	9,338	936,258
会計方針の変更による累積的影響額						1,919	1,919
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,480,180	1,702,245	1,702,245	66,920	860,000	11,258	938,178
当期変動額							
別途積立金の取崩					300,000	300,000	-
自己株式の取得							
剰余金の配当						109,936	109,936
当期純損失（ ）						892,688	892,688
当期変動額合計	-	-	-	-	300,000	702,624	1,002,624
当期末残高	1,480,180	1,702,245	1,702,245	66,920	560,000	691,365	64,445

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	159,455	3,959,228	3,959,228
会計方針の変更による累積的影響額		1,919	1,919
会計方針の変更を反映した当期首残高	159,455	3,961,148	3,961,148
当期変動額			
別途積立金の取崩		-	-
自己株式の取得	34	34	34
剰余金の配当		109,936	109,936
当期純損失（ ）		892,688	892,688
当期変動額合計	34	1,002,658	1,002,658
当期末残高	159,489	2,958,489	2,958,489

当事業年度（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,480,180	1,702,245	1,702,245	66,920	560,000	691,365	64,445
会計方針の変更による累積的影響額							-
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,480,180	1,702,245	1,702,245	66,920	560,000	691,365	64,445
当期変動額							
別途積立金の取崩					560,000	560,000	-
自己株式の取得							
剰余金の配当						-	-
当期純損失（ ）						182,137	182,137
当期変動額合計	-	-	-	-	560,000	377,862	182,137
当期末残高	1,480,180	1,702,245	1,702,245	66,920	-	313,503	246,583

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	159,489	2,958,489	2,958,489
会計方針の変更による累積的影響額		-	-
会計方針の変更を反映した当期首残高	159,489	2,958,489	2,958,489
当期変動額			
別途積立金の取崩		-	-
自己株式の取得	7	7	7
剰余金の配当		-	-
当期純損失（ ）		182,137	182,137
当期変動額合計	7	182,145	182,145
当期末残高	159,497	2,776,344	2,776,344

## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純損失 ( )	474,324	125,217
減価償却費	307,644	261,128
減損損失	43,734	11,969
賞与引当金の増減額 ( は減少 )	8,086	8,199
退職給付引当金の増減額 ( は減少 )	971	32,798
貸倒引当金の増減額 ( は減少 )	105	423
受取利息及び受取配当金	3,465	536
有価証券利息	752	31
支払利息	22,877	21,218
固定資産除却損	33,071	15,188
有形固定資産売却損益 ( は益 )	-	103,868
退店補償金	12,265	26,899
売上債権の増減額 ( は増加 )	27,748	5,305
たな卸資産の増減額 ( は増加 )	26,006	26,792
仕入債務の増減額 ( は減少 )	71,824	28,468
未払金の増減額 ( は減少 )	4,258	26,645
未払消費税等の増減額 ( は減少 )	199,475	21,769
その他	11,064	20,289
小計	191,707	58,124
利息及び配当金の受取額	3,636	2,147
利息の支払額	23,715	21,729
退店補償金の受取額	5,159	39,165
法人税等の還付額	3,987	-
法人税等の支払額	30,219	60,225
営業活動によるキャッシュ・フロー	150,556	17,482

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	445,298	687,175
定期預金の払戻による収入	622,995	735,534
投資有価証券の取得による支出	99,960	-
投資有価証券の売却及び償還による収入	100,037	100,000
有形固定資産の取得による支出	66,971	171,443
有形固定資産の売却による収入	-	341,000
敷金及び保証金の差入による支出	6,810	43,417
敷金及び保証金の回収による収入	45,169	218,896
その他	23,129	39,398
投資活動によるキャッシュ・フロー	126,032	453,995
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	392,000	664,000
短期借入金の返済による支出	406,800	649,000
長期借入れによる収入	150,000	353,000
長期借入金の返済による支出	455,347	432,257
社債の償還による支出	100,000	70,000
リース債務の返済による支出	21,115	21,216
預り保証金の受入による収入	169,200	-
預り保証金の返還による支出	-	125,544
自己株式の取得による支出	34	7
配当金の支払額	110,094	873
財務活動によるキャッシュ・フロー	382,190	281,899
現金及び現金同等物に係る換算差額	195	78
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	105,404	189,658
現金及び現金同等物の期首残高	1,178,106	1,072,701
現金及び現金同等物の期末残高	1,072,701	1,262,359

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品・美容材料

主として移動平均法による原価法を採用しております。

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～60年

器具備品 3～10年

なお、「定期賃貸借契約」による建物については、耐用年数を個別の定期賃貸借期間によって償却しております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売掛債権等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、発生した事業年度に全額費用処理することとしております。

4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

## 1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
建物	371,972千円	317,574千円
土地	1,315,455	1,133,514
敷金及び保証金	240,275	240,275
その他(流動資産)	33,314	-
計	1,961,017	1,691,364

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
短期借入金	86,800千円	101,800千円
長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	1,219,188	1,240,499
計	1,305,988	1,342,299

## 2 保証債務

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
一部の賃貸借物件の敷金及び保証金について、 当社、貸主及び金融機関との間で締結した代預 託契約に基づく貸主の金融機関に対して負う預 託金の返還債務に対する保証	72,463千円	47,267千円

## 3 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約を締結しております。当該契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
当座貸越極度額	600,000千円	250,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	600,000	250,000

(損益計算書関係)

- 1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度11.2%、当事業年度9.6%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度88.8%、当事業年度90.4%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
広告宣伝費	168,656千円	144,136千円
役員報酬	180,899	189,569
給与・賞与	545,813	535,179
賞与引当金繰入額	64,549	65,540
退職給付費用	3,562	8,128
減価償却費	26,827	26,628
貸倒引当金繰入額	105	423

- 2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
建物	- 千円	48,313千円
土地	-	55,555
計	-	103,868

- 3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
建物	31,374千円	4,725千円
その他	1,696	10,588
計	33,071	15,313



## 4 減損損失

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
新潟県新潟市	店舗	建物
東京都港区	店舗	建物、リース資産
東京都目黒区	店舗	建物、リース資産
神奈川県横浜市	店舗	建物
京都府京都市	店舗	建物
大阪府吹田市	店舗	建物、リース資産
大阪府泉佐野市	店舗	建物、リース資産
福岡県北九州市	店舗	建物、リース資産
熊本県熊本市	店舗	建物、リース資産

当社はキャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位としてグルーピングしております。営業活動から生じる損益が継続してマイナスである店舗における資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

その内訳は、建物40,207千円、リース資産3,526千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを4%で割り引いて算定しております。

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
神奈川県横浜市	店舗	建物
神奈川県相模原市	店舗	建物
福岡県福岡市	店舗	建物
埼玉県さいたま市	店舗	建物
新潟県新潟市	店舗	建物

当社はキャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位としてグルーピングしております。営業活動から生じる損益が継続してマイナスである店舗における資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

その内訳は、建物11,969千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを3%で割り引いて算定しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	5,100,000	-	-	5,100,000
合計	5,100,000	-	-	5,100,000
自己株式				
普通株式(注)	102,895	41	-	102,936
合計	102,895	41	-	102,936

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加41株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月17日 定時株主総会	普通株式	109,936	22	平成26年3月31日	平成26年6月18日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

当事業年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	5,100,000	-	-	5,100,000
合計	5,100,000	-	-	5,100,000
自己株式				
普通株式(注)	102,936	10	-	102,946
合計	102,936	10	-	102,946

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加10株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)
現金及び預金勘定	1,397,762千円	1,539,061千円
預入期間が3か月を超える定期預金等	325,061	276,701
現金及び現金同等物	1,072,701	1,262,359

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

美容業における設備(工具、器具及び備品)であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち、解約不能のものに係る未経過リース料

(単位: 千円)

	前事業年度 (平成27年 3 月31日)	当事業年度 (平成28年 3 月31日)
1年内	1,540	1,540
1年超	2,311	770
合計	3,852	2,311

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、設備計画に照らして、設備に必要な資金(主に銀行借入や社債発行)を調達しております。余資は元本が保証されている定期預金及び一定以上の格付を取得した債券を対象に運用することとしております。また、短期的な運転資金は銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金、敷金及び保証金については取引先の信用リスクに晒されております。有価証券は満期保有目的の債券であり、発行体の信用リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

長期借入金、社債は主に設備投資に係る資金調達を目的としており一定期間毎に定額で返済または償還しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権、敷金及び保証金について、事業部門における営業グループ、支社が各々統括する主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、経理グループにおいて毎月取引先毎に期日及び残高を管理することによって、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

定期預金については、高格付の銀行との取引のみとしており、有価証券及び投資有価証券については、高格付の債券のみとしているために、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する銀行に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

市場リスク(金利の変動リスク)の管理

債券については、定期的に時価を把握しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、担当部署が取締役会の承認を得て行なっております。月次の取引実績は、取締役会に報告することになっております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項  
前事業年度（平成27年3月31日）

	貸借対照表計上額 （千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	1,397,762	1,397,762	-
(2) 売掛金	524,834	524,834	-
(3) 有価証券	100,000	99,980	20
(4) 敷金及び保証金	1,949,544	1,941,712	7,832
資産計	3,972,141	3,964,289	7,852
(1) 支払手形	409,818	409,818	-
(2) 買掛金	73,381	73,381	-
(3) 短期借入金	86,800	86,800	-
(4) 未払金	117,727	117,727	-
(5) 未払法人税等	79,092	79,092	-
(6) 未払消費税等	250,483	250,483	-
(7) 社債	130,000	130,903	903
(8) 長期借入金	1,511,715	1,522,109	10,394
(9) リース債務	37,498	37,149	349
負債計	2,696,516	2,707,465	10,948

当事業年度（平成28年3月31日）

	貸借対照表計上額 （千円）	時価（千円）	差額（千円）
(1) 現金及び預金	1,539,061	1,539,061	-
(2) 売掛金	529,700	529,700	-
(3) 有価証券	-	-	-
(4) 敷金及び保証金	1,806,505	1,806,225	280
資産計	3,875,267	3,874,986	280
(1) 支払手形	368,082	368,082	-
(2) 買掛金	76,605	76,605	-
(3) 短期借入金	101,800	101,800	-
(4) 未払金	143,500	143,500	-
(5) 未払法人税等	95,717	95,717	-
(6) 未払消費税等	228,713	228,713	-
(7) 社債	60,000	60,392	392
(8) 長期借入金	1,432,458	1,443,666	11,208
(9) リース債務	51,222	50,537	684
負債計	2,558,100	2,569,017	10,916

## (注)金融商品の時価の算定方法

## 資 産

## (1)現金及び預金、(2)売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (3)有価証券

債券については、取引金融機関から提示された価格によっております。

## (4)敷金及び保証金

敷金及び保証金については、賃貸借先別にそのキャッシュ・フローを残存期間に応じた国債利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

## 負 債

## (1)支払手形、(2)買掛金、(3)短期借入金、(4)未払金、(5)未払法人税等、(6)未払消費税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (7)社債

時価については、新規に同様の社債発行を行った場合に想定される利率及び保証料で割り引いた現在価値により算定しております。なお、1年内償還予定の社債を社債に含めております。

## (8)長期借入金

時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、1年内返済予定の長期借入金を長期借入金に含めております。

## (9)リース債務

時価については、未経過リース料の合計額を新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、リース債務は流動負債及び固定負債の合計額であります。

## 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

## 前事業年度 (平成27年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,397,762	-	-	-
売掛金	524,834	-	-	-
有価証券 満期保有目的の債券	100,000	-	-	-
合計	2,022,597	-	-	-

(注)敷金及び保証金については償還予定が確定していないため記載しておりません。

## 当事業年度 (平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,539,061	-	-	-
売掛金	529,700	-	-	-
合計	2,068,761	-	-	-

(注)敷金及び保証金については償還予定が確定していないため記載しておりません。

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の決算日後の償還額及び返済予定額  
前事業年度（平成27年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	86,800	-	-	-	-	-
社債	70,000	40,000	20,000	-	-	-
長期借入金	386,577	619,942	229,939	173,259	64,430	37,568
リース債務	17,712	11,854	5,025	2,667	239	-
合計	561,089	671,796	254,964	175,926	64,669	37,568

当事業年度（平成28年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	101,800	-	-	-	-	-
社債	40,000	20,000	-	-	-	-
長期借入金	688,102	293,099	241,419	137,590	53,034	19,214
リース債務	18,470	11,362	9,283	7,135	3,421	1,548
合計	848,372	324,461	250,702	144,725	56,455	20,762

(有価証券関係)

1.満期保有目的の債券

前事業年度(平成27年3月31日)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	100,000	99,980	20
	(3)その他	-	-	-
	小計	100,000	99,980	20
合計		100,000	99,980	20

当事業年度(平成28年3月31日)

該当事項はありません。

2.売却したその他有価証券

前事業年度(自平成26年4月1日至平成27年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1)株式	-	-	-
(2)債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3)その他	99,774	76	-
合計	99,774	76	-

当事業年度(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。



## (退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度として退職一時金制度を設けております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
退職給付債務の期首残高	384,729千円	382,718千円
会計方針の変更による累積的影響額	2,982	-
会計方針の変更を反映した期首残高	381,747	382,718
勤務費用	52,677	55,721
利息費用	1,841	3,107
数理計算上の差異の発生額	8,184	17,845
退職給付の支払額	45,364	43,876
退職給付債務の期末残高	382,718	415,516

## (2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	382,718千円	415,516千円
未積立退職給付債務	382,718	415,516
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	382,718	415,516
退職給付引当金	382,718	415,516
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	382,718	415,516

## (3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
勤務費用	52,677千円	55,721千円
利息費用	1,841	3,107
数理計算上の差異の費用処理額	8,184	17,845
確定給付制度に係る退職給付費用	46,335	76,674

## (4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

## 主要な数理計算上の計算基礎

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
割引率	0.8%	0.0%

(注) 当事業年度の期首時点の計算において適用した割引率は0.8%でありましたが、期末時点において割引率の再検討を行った結果、割引率の変更により退職給付債務の額に重要な影響を及ぼすと判断し、割引率を0.0%に変更しております。

## (ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	66,295千円	65,280千円
繰越欠損金	152,696	154,153
減損損失	24,538	21,962
退職給付引当金	123,771	127,231
資産除去債務	72,129	63,514
その他	41,754	43,849
繰延税金資産小計	481,186	475,992
評価性引当額	481,186	475,992
繰延税金資産合計	-	-
繰延税金負債		
資産除去債務	12,204	10,053
繰延税金負債合計	12,204	10,053
繰延税金資産(負債)の純額	12,204	10,053

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
税引前当期純損失であるため、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の主要な項目別の内訳に関しては記載しておりません。	税引前当期純損失であるため、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の主要な項目別の内訳に関しては記載しておりません。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の32.3%から平成28年4月1日に開始する事業年度及び平成29年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.9%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、30.6%となります。

この税率変更により、繰延税金負債の金額は526千円減少し、法人税等調整額が同額減少しております。

( 持分法損益等 )

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

1. 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ. 当該資産除去債務の概要

美容室店舗の建物賃貸借契約のうち定期賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ. 当該資産除去債務の金額の算定方法

定期賃貸借契約の物件について取得から定期賃貸借契約期間で見積り、割引率は定期賃貸借期間に応じた国債利回りを使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ. 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
期首残高	209,394千円	223,034千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	8,404
時の経過による調整額	996	742
資産除去債務の履行による減少額	12,984	30,439
その他の増減額( は減少)	25,628	5,686
期末残高	223,034	207,429

2. 貸借対照表に計上しているもの以外の資産除去債務

当社は、賃貸借契約に基づき使用する美容室店舗等については、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、定期賃貸借契約以外の賃貸借契約のうち、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく現時点で移転等も予定されていないものについては、資産除去債務を合理的に見積ることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

( 賃貸等不動産関係 )  
該当事項はありません。

( セグメント情報等 )

【セグメント情報】

前事業年度(自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)及び当事業年度(自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)

当社は、美容事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

( 単位：千円 )

	美容施術	商品	その他	合計
外部顧客への売上高	10,382,128	1,338,425	42,554	11,763,108

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

( 単位：千円 )

	美容施術	商品	その他	合計
外部顧客への売上高	10,428,671	1,377,110	37,832	11,843,613

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

当社は、単一セグメントであるため、記載を行っておりません。

当事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当社は、単一セグメントであるため、記載を行っておりません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

該当事項はありません。

( 1 株当たり情報 )

項目	前事業年度 ( 自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日 )	当事業年度 ( 自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日 )
1 株当たり純資産額 ( 円 )	592.05	555.60
1 株当たり当期純損失金額 ( 円 )	178.64	36.45
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額	なお、潜在株式調整後 1 株当たり 当期純利益金額については、1 株当 たり当期純損失であり、また、潜在 株式が存在しないため記載しており ません。	なお、潜在株式調整後 1 株当たり 当期純利益金額については、1 株当 たり当期純損失であり、また、潜在 株式が存在しないため記載しており ません。

( 注 ) 1 株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 ( 自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日 )	当事業年度 ( 自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日 )
当期純損失 ( 千円 )	892,688	182,137
普通株主に帰属しない金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る当期純損失金額 ( 千円 )	892,688	182,137
期中平均株式数 ( 千株 )	4,997	4,997

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残 高 (千円)
有形固定資産							
建物	4,330,056	175,492	252,798 (11,969)	4,252,749	2,952,472	237,700	1,300,277
構築物	26,304	-	510	25,794	22,932	549	2,861
工具、器具及び備品	40,016	-	-	40,016	39,641	139	374
土地	1,375,445	-	181,940	1,193,505	-	-	1,193,505
リース資産	69,989	34,940	18,031	86,898	37,791	15,991	49,106
建設仮勘定	-	161,816	161,816	-	-	-	-
有形固定資産計	5,841,812	372,248	615,096 (11,969)	5,598,964	3,052,839	254,381	2,546,124
無形固定資産							
ソフトウェア	-	-	-	8,187	4,608	1,469	3,578
リース資産	-	-	-	26,388	24,189	5,277	2,199
その他	-	-	-	30,097	-	-	30,097
無形固定資産計	-	-	-	64,672	28,797	6,747	35,875
長期前払費用	81,817	6,309	16,871	71,254	47,153	13,817	24,101
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは下記のとおりであります。

建物	TAYA 伊勢丹相模原店 内装	77,365千円
	TAYA 姫路店 内装	36,210
	TAYA 神戸元町店 内装	32,275
建設仮勘定	TAYA 伊勢丹相模原店 内装	71,846
	TAYA 姫路店 内装	33,325
	TAYA 神戸元町店 内装	32,275

2. 当期減少額のうち主なものは下記のとおりであります。

建物	雪ヶ谷社員寮	113,419千円
	TAYA 西武春日部店 内装	39,122
	クレージュ・サロン・ボーテ 北大路ビブレ店 内装	38,416
土地	雪ヶ谷社員寮	181,940

3. 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

4. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【社債明細表】

銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限
第5回無担保普通社債	平成年月日 22.9.30	30,000 (30,000)	- (-)	0.67	なし	平成年月日 27.9.30
第6回無担保普通社債	24.9.28	100,000 (40,000)	60,000 (40,000)	0.53	なし	29.9.29
合計	-	130,000 (70,000)	60,000 (40,000)	-	-	-

(注) 1. ( ) 内書きは、1年以内の償還予定額であります。

2. 貸借対照表日後5年以内における償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内(千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
40,000	20,000	-	-	-

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	86,800	101,800	0.8	-
1年以内に返済予定の長期借入金	386,577	688,102	1.1	-
1年以内に返済予定のリース債務	17,712	18,470	-	-
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	1,125,138	744,356	1.3	平成29年～34年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	19,786	32,751	-	平成29年～34年
合計	1,636,013	1,585,480	-	-

(注) 1. 平均利率は、期末の残高及び利率を用いて算定した加重平均利率であります。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	293,099	241,419	137,590	53,034
リース債務	11,362	9,283	7,135	3,421



【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	748	325	-	748	325
賞与引当金	204,996	213,195	204,996	-	213,195

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が財務諸表等規則第8条の28に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

( 2 ) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

1) 現金及び預金

区分	金額 ( 千円 )
現金	31,147
預金	
当座預金	911
普通預金	671,886
定期預金	824,428
定期積金	8,200
別段預金	2,488
小計	1,507,913
合計	1,539,061

2) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 ( 千円 )
三井住友カード(株)	67,550
(株)三越伊勢丹	46,291
(株)ジェーシービー	33,467
(株)そごう・西武	25,781
(株)丸井	23,995
その他	332,614
合計	529,700

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 ( 千円 )	当期発生高 ( 千円 )	当期回収高 ( 千円 )	当期末残高 ( 千円 )	回収率 ( % )	滞留期間 ( 日 )
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{366}$
524,834	9,224,717	9,219,852	529,700	94.6	20.9

( 注 ) 上記金額には消費税等が含まれております。

３）商品

品目	金額（千円）
ヘアケア商品	44,570
化粧品他	36,629
合計	81,200

４）美容材料

品目	金額（千円）
美容材料	34,974
合計	34,974

５）貯蔵品

区分	金額（千円）
販売促進品他	14,968
合計	14,968

６）敷金及び保証金

相手先	金額（千円）
三井不動産㈱	124,663
三菱地所㈱	85,581
㈱ジェイアール東日本商事	80,726
阪神電気鉄道㈱	78,660
㈱東急モールズデベロップメント	68,525
その他	1,368,348
合計	1,806,505

負債の部

１）支払手形

（イ）相手先別内訳

相手先	金額（千円）
タカラベルモント㈱	89,463
㈱ガモウ	59,136
㈱ダリア	46,476
玉理化学㈱	46,385
㈱フジシン	33,067
その他	93,553
合計	368,082

(口) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成28年4月	134,565
5月	89,573
6月	109,298
7月	34,645
合計	368,082

2) 買掛金

相手先	金額(千円)
玉理化学(株)	16,692
(株)ガモウ	15,010
(株)フジシン	11,220
(株)ダリア	8,282
(株)ユーロプレスステージ	6,982
その他	18,417
合計	76,605

3) 未払費用

内容	金額(千円)
給料	418,112
社会保険料	57,385
事業所税	14,157
その他	5,825
合計	495,480

4) 退職給付引当金

区分	金額(千円)
未積立退職給付債務	415,516
合計	415,516

( 3 ) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

( 累計期間 )	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当事業年度
売上高 ( 千円 )	2,873,966	5,807,666	8,937,058	11,843,613
税引前四半期 ( 当期 ) 純損失 金額 ( ) ( 千円 )	190,637	236,500	149,940	125,217
四半期 ( 当期 ) 純損失金額 ( ) ( 千円 )	203,061	264,182	192,929	182,137
1 株当たり四半期 ( 当期 ) 純損失金額 ( ) ( 円 )	40.64	52.87	38.61	36.45

( 会計期間 )	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期純利益金額 又は 1 株当たり四半期純損失 金額 ( ) ( 円 )	40.64	12.23	14.26	2.16

## 第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4 月 1 日から 3 月31日まで
定時株主総会	6 月中
基準日	3 月31日
剰余金の配当の基準日	9 月30日 3 月31日
1 単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	( 特別口座 ) 東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 5 号 三菱 U F J 信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	( 特別口座 ) 東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 5 号 三菱 U F J 信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.taya.co.jp">http://www.taya.co.jp</a>
株主に対する特典	毎年 3 月31日現在及び 9 月30日現在の株主に対し、優待券を 2 回、以下の基準により発行する。 ( 1 ) 贈呈基準 所有株式数100株以上500株未満の株主に対し、一律 2,160円券 1 枚の優待券を贈呈する。 所有株式数500株以上1,000株未満の株主に対し、一律 6,480円券 1 枚の優待券を贈呈する。 所有株式数1,000株以上の株主に対し、一律6,480円券 2 枚の優待券を贈呈する。 ( 2 ) 利用方法 すべての美容施術 ( カット・パーマ・カラー等 ) 及び商品のお買上げにつき、使用する。 ( 3 ) 有効期限 3 月31日発行基準の優待券 7 月 1 日 ~ 12月31日まで有効 ( 年 2 回発行 ) 9 月30日発行基準の優待券 1 月 1 日 ~ 6 月30日まで有効 ( 4 ) 取扱店舗 当社の経営する全店舗

( 注 ) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第 2 項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

## 第 7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の 7 第 1 項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第41期）（自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日）平成27年 6 月17日関東財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成27年 6 月17日関東財務局長に提出

#### (3) 四半期報告書及び確認書

（第42期第 1 四半期）（自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 6 月30日）平成27年 8 月11日関東財務局長に提出

（第42期第 2 四半期）（自 平成27年 7 月 1 日 至 平成27年 9 月30日）平成27年11月10日関東財務局長に提出

（第42期第 3 四半期）（自 平成27年10月 1 日 至 平成27年12月31日）平成28年 2 月12日関東財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

平成27年 6 月18日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 9 号の 2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成28年 6 月15日

株 式 会 社 田 谷  
取 締 役 会 御中

普 賢 監 査 法 人

代表社員 公認会計士 荒木 正博 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 坂本 恒夫 印  
業務執行社員

### < 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社田谷の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第42期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社田谷の平成28年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社田谷の平成28年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社田谷が平成28年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書及び内部統制監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。